

第11章 東久保遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東久保遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約500～1,000m程下った右岸に位置している。標高17～20mで現谷底との比高差は3～4mを測る。福岡江川の左岸の南面は急傾斜を成す。本遺跡をのせる右岸の台地は県道東大久保・大井線を境に南北および西側に緩やかに傾斜する。遺跡の南側縁辺には用水路が流れており、用水路以前にも流水があつたものと考えられる。

遺跡周辺は急激な市街化によって工場や住宅、市立亀久保小学校が建ち、区画整理事業が実施され今後更に開発が予想される。

周辺の遺跡は、本遺跡と福岡江川間に平安時代の遺物を出土する江川東遺跡が位置する。西側約50mに江川南遺跡、南側に隣接して亀久保堀跡遺跡が位置する。

本遺跡の調査は1976年以来2008年1月現在まで、65地点で試掘調査および発掘調査を行なっている。

これまでの調査で、旧石器時代礫群、縄文時代の落とし穴・土坑・集石土坑等、中・近世は溝や柵跡が確認されている。

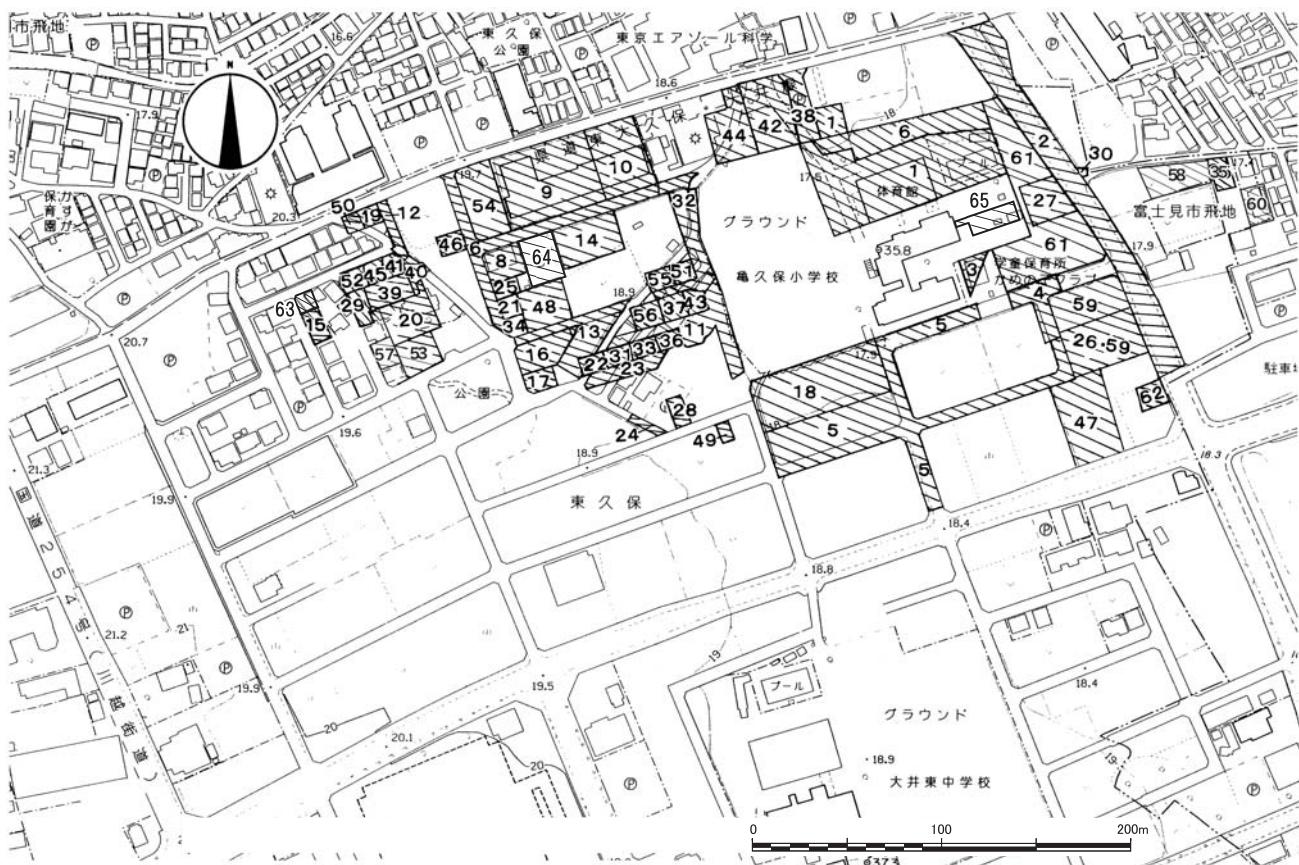
II 東久保遺跡第65地点

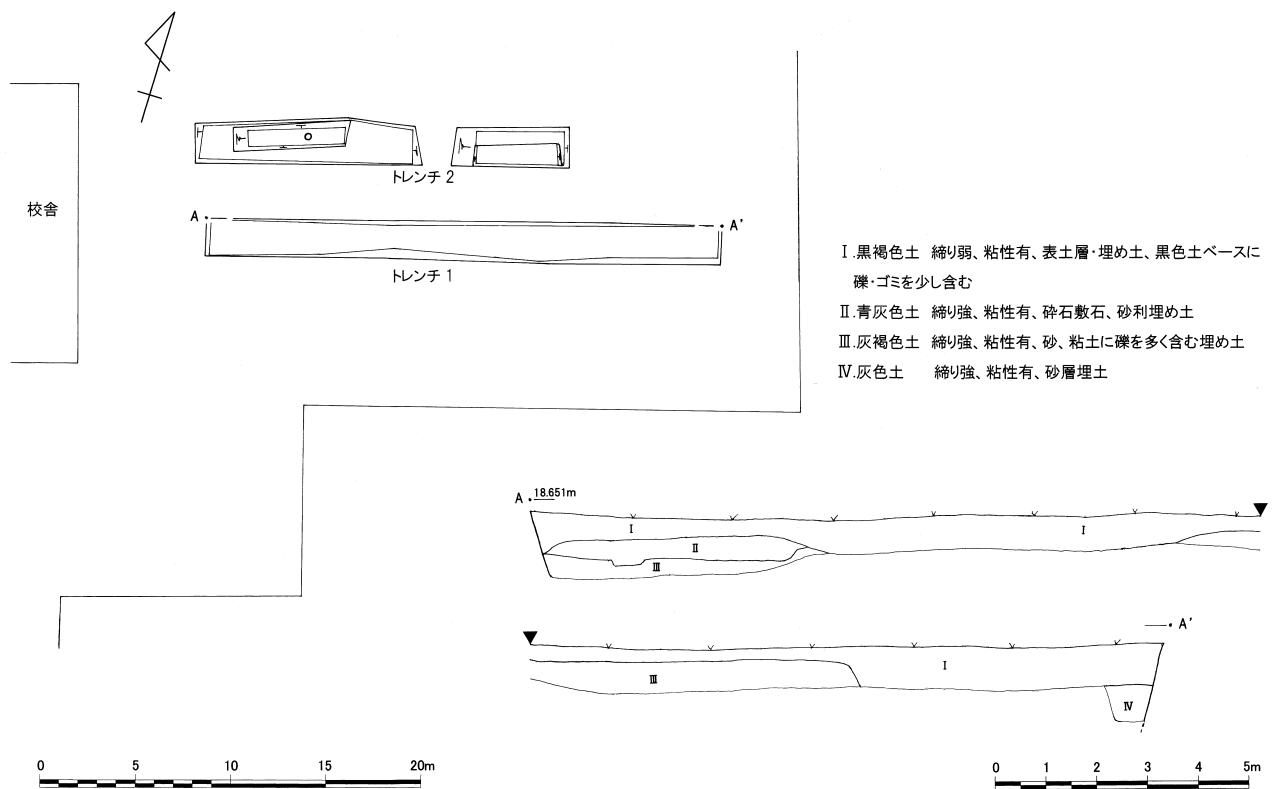
(1) 調査の概要

調査はふじみ野市立亀久保小学校本校舎の教室棟増築に伴うもので、ふじみ野市長より2007年11月14日付けて「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。市立亀久保小学校は遺跡の中央部に位置し、東側にある第27地点の調査では縄文時代のピット等を検出している。

今回増築予定の教室は、管理・特別教室棟の東側部分で、大プールの南側である。建設工事の担当課である市教育委員会学校教育課と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は2008年1月18日から28日まで行なった。幅2mのトレーナーを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、遺構・遺物は確認されなかつた。調査区は埋没河川（以前は用水路）に近いため周辺より低く、小学校建設時以降60～160cmの厚さで盛土が行なわれている。

写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。





第32図 東久保遺跡第65地点調査区域図 (1/400)、土層図 (1/150)



江川東遺跡第14地点試掘調査トレンチ 1



江川東遺跡第14地点試掘調査トレンチ 2



江川東遺跡第15地点試掘調査トレンチ 1・2



江川東遺跡第15地点試掘調査トレンチ 3・4



江川東遺跡第15地点出土遺物



東久保遺跡第65地点試掘調査トレンチ 1



東久保遺跡第65地点試掘調査トレンチ 2



東中学校西遺跡第31地点近景